

20 デジタル・アナログ

今週は多くの学級で、横浜市から貸与された iPad を使用しての学習が行われました。まずはその使い方や、ルール・マナーについて確認をし、実際に「ロイロ・ノート」「グーグル・クラス」といったアプリケーションを起動させ、ログインやアカウント登録などを行ったり、カメラ機能を利用して、体育科学習で自分の動きを撮影してみたりしました。中にはすでにタブレットに慣れている子もいて、先生が逆に教わるという場面もありました。



この逆転現象が実はすごくいいのです。教える側も教わる側も実に真剣です。「できた！・分かった！」ということ、「子どもの気持ちに寄り添う」ということが、どういうことなのか、教師が実感できるのです。また教える側の子どもたちも、どう伝えたらわかってもらえるのか、伝えたことが相手に通じ、ともにその達成を喜ぶ、その喜びの共感が表現への意欲へとつながっていくのです。

タブレット一つのことではありますが、ここに主体的・対話的な学びが成立しているのです。この先さらに様々な学びをつくっていく可能性があります。子どもたちの発想に、先生方の柔軟さに大いに期待したいところです。

デジタル的な学びの可能性に期待するとともに、えんぴつやノートを使った、アナログ的な学びの大切さも、再認識しました。文字を書くことで、姿勢に気を付けたり、字形や筆圧を自分で調整したり、三角定規や分度器、コンパスをつかって直接ノートに図を描いたり、まとめ方ひとつにもイラストや吹き出しなどを利用して個性を表したりと、状況や内容によって、どのように使い分けていくかも今後考えていかなければなりません。